

SDGs宣言

地球が温暖化や世界的な人口爆発といった課題に直面する中、脱炭素をはじめとする持続可能社会の実現に向けた流れは社会の要請であり、世界的な潮流となっています。鈴与は長い歴史の中でさまざまな社会課題に対する取り組みを積み重ねており、これらをSDGsの切り口で整理することといたしました。

鈴与の理念である『共生』の精神は、SDGsに掲げられ

ている17の目標と共通することが多くあり、当社の事業活動や取り組みは持続可能な社会の実現につながるものと考えております。

今後も『共生』の精神に則り、社会インフラたる物流を支え続け、鈴与の課題解決力と卓越専門性を持って物流を最適化することによりお客さまに貢献し、その先にある社会に貢献してまいります。

マテリアリティの整理と開示方法

SDGsの実現に向け、社会・環境・経済や、業界としての課題、および鈴与の事業活動を起点に、今後、鈴与が中長期的に注力すべき取り組みについて改めて整理し、ステークホルダーの皆さまにとって重要性が高く、優先して取り組むべき事項を右表にまとめました。

本誌では、近年の社会的な非財務情報可視化へのニーズを受け、「SDGs実現に向けた活動テーマと主な取り組み」に関する掲載事項について、定量および定性情報の充実を図りました。

今後も各種ガイドラインを踏まえながら、『共生』の考え方、それに基づく活動をお伝えしていきます。

STEP1 課題抽出	STEP2 自社にとっての重要度、事業との関連度を評価	STEP3 『共生』を基軸に、重要課題を選定・整理
SDGs・ISO26000・GRIスタンダード※・SASBスタンダード※・総物流大綱などを参照し、社会・環境・経済や、物流業界の課題を広範囲に抽出	当社の企業理念・方針・中期経営計画・事業戦略などとの整合性を図り、課題の重要性や妥当性を評価	「社会との共生」「お客さま・取引先との共生」「社員同士、グループ各社との共生」の考え方を基軸に、当社の重要課題を選定・整理

※GRI(Global reporting initiative)スタンダード：

組織のサステナビリティ（持続可能性）の情報開示のガイドラインである。日本を含め、世界中の数多くの企業や組織に活用されており、経済・環境・社会へのインパクト（＝持続可能な発展への寄与）を、投資家だけでなくより広いステークホルダー（従業員、サプライヤー、社会的弱者、地域コミュニティなどを含む）に向けて「サステナビリティ報告書」として開示することで持続可能な発展への貢献を説明することを目的としている。

※SASB(Sustainability Accounting Standard Boards)スタンダード：

組織のサステナビリティ（持続可能性）の情報開示のガイドラインである。業種ごとの情報開示基準が定められていることが特徴であり、主に投資家を対象に、企業の財務的に重要な、環境・社会などの持続可能性に関する情報を、業種ごとに固有の項目に沿って投資家に向けて開示することを目的としている。

物流を通じたお客さまへのSDGs提案

脱炭素を中心とする持続可能社会の実現に向けた流れは、世界的に日に日に強く大きく、そして速くなっており、多くの企業がその対応について苦慮しています。物流分野においても、地球温暖化対策や環境負荷低減のための取り組みとして、ハード面では輸送機器・物流施設の改良、ソフト面では輸送ルートの

見直し・効率化など、物流の全体プロセスでの効率化が必須となっています。企業が投資をせずにすぐ実行できる脱炭素の取り組みは「物流の最適化」です。当社が提供する全体最適提案は、「物流導線を省く」「物流導線を太くする」「輸送モードを変える」ことでCO2の削減に寄与します。

SDGsマテリアリティ

1. お客さまと取引先との共生		関連するGRI項目	具体的な取り組み	掲載ページ
脱炭素社会・循環型社会の実現に向けて貢献します	物流の全体最適提案によりCO2を削減します CO2排出量の少ない輸送手段を採用します	302	フェリー輸送によるモーダルシフトの提案	P.16
		305	令和3年度 エコシップマークの認定	P.16
		403	関東と関西の中間で貨物をリレーするスイッチ輸送の推進	P.16
			異業種荷主の共同運行を実現するグリーン物流の推進	P.17
			再生資源や危険品の内航コンテナ輸送の推進	P.17
	新エネルギーを活用します 事業拠点の省エネ化を推進します 資源循環へ貢献します	302 305	遠隔操作RTGの導入	P.17
		201	令和3年度 静岡市森林環境アドプト企業に認定	P.17
		302 305	自社倉庫屋根への太陽光パネルの設置	P.18
物流インフラを支える組織としてのガバナンスを強化します	作業安全・事故予防の取り組みを強化します	306	エスパルスグループデーでのペットボトル回収企画	P.18
		403 404	CA-5 作業改善提案発表会の開催	P.18
		403	安全衛生委員会の開催	—

2. 社員同士、グループ各社との共生		関連するGRI項目	具体的な取り組み	掲載ページ
働き方改革を通じて、社員のエンゲージメントを向上させます	デジタル化・データ活用などを通じて生産性を向上します	302 305	遠隔操作RTGの導入	P.17
		403 404	CA-5 作業改善提案発表会の開催	P.18
	社員が働き甲斐・働きやすさを実感でき、活躍できる環境整備を行います	401 403	働き方改革推進室の設置 オフィスのリノベーション	P.18 P.19
		401 404	人事制度の刷新 研修プログラム Suzuyo Career Development Program	P.19 P.19
多様な人材の雇用と人権を尊重します	従業員の仕事と子育ての両立の支援をします	413	家族で参加する、お客さま工場見学ツアーの開催	P.20
			社員の家族を対象とした職場見学会の開催	P.20
		401	育児休業規程、時短勤務制度、慶弔規程の改訂	P.20
		401 413	優良な子育てサポート企業としてプラチナくるみんの認定	P.20
	外国人の雇用をします。高齢者の再雇用をします	405 406	障がい者雇用の推進	—
		302 305	遠隔操作RTGの導入	P.17
	従業員の心身の健康を支える、健康経営の推進をします	403 404	CA-5 作業改善提案発表会の開催	P.18

3. 社会との共生		関連するGRI項目	具体的な取り組み	掲載ページ
地域社会への貢献と地方創生に取り組みます	地域の人、社会の未来を豊かにする社会貢献活動を行います	413	Suzuyo いいね！プロジェクトの推進	P.21
			一社一村しずおか運動に認定	P.21
			清水みなと祭りへの協賛	P.21
			小・中学生を対象としたみなと見学会の開催	P.22
			シヅクリ・プロジェクトへの参画	P.22
			清水港／田子の浦港クルーズの開催	P.22
			清水エスパルスの支援	P.23
			地域スポーツ振興の推進	P.23
			鈴与杯少年剣道大会の開催	P.23
			フードバンクふじのくにへ レトルトスープ・缶詰などを寄付	P.24
			静岡市社会福祉協議会へ レトルト白米や缶詰を寄付	P.24
	地域の教育、文化振興へ貢献します	201 413	マッチングギフトの贈呈	P.24
		201	各種義援金への寄付の実施	P.24
		203 413	水口屋ギャラリーの運営 フェルケール博物館の運営支援	P.25 P.25
		413	フェルケール博物館 ギャラリーコンサートの開催	P.25
			(学)静岡理科大学への支援	P.25
		201 413	(偏)玉柏会の支援 静岡市立清水病院設立支援と医療研究奨励 鈴与基金	P.26 P.26
			清水港・みなと色彩計画への協力	P.26
		403	新型コロナウイルス感染症への対策	P.26
			防災訓練の実施	—

社員同士、グループ各社との共生

当社は、3つの共生の一つである「社員同士、グループ各社との共生」を実現するためには、人権を尊重し、従業員のエンゲージメントの向上ならびに、多様な人財の雇用が、不可欠であると考えています。従業員が働きがいを感じ、Well-beingを実現するため、働きやすい環境や制

度を整備し、人財育成への投資を行うほか、デジタル化・データ活用による生産性の向上にも取り組んでいます。また、コンプライアンス体制を整え、仕事と子育ての両立の支援につながる諸制度を整備し、多様な人財の雇用を進めるなどの取り組みも行っています。

社員の状況

		2020年度	2021年度	2022年度
従業員数（名）		1,035	1,007	974
男女別従業員数（名）	男性	801	774	759
	女性	234	233	215

社員の多様性

	2020年度	2021年度	2022年度
女性従業員比率（％）	22.6	23.1	22.1
女性管理職比率（％）	2.2	2.5	3.2

支援体制

	2020年度	2021年度	2022年度
有給休暇平均取得日数（日）	10.9	10.5	12.6
有給休暇平均取得率（％）	55.3	52.8	62.3
産前産後休暇取得者数（名）	25	17	17
産前産後休暇取得率（％）	2.4	1.7	1.7
育児休業制度利用者数（名）	29	35	28
育児休業制度利用者率（％）	2.8	3.5	2.9
育児短時間勤務制度利用者数（名）	50	54	63
育児休暇等の後の復職率・定着率（％）	復職率 100	復職率 96	復職率 100
	定着率 100	定着率 100	定着率 100

教育

	2020年度	2021年度	2022年度
研修時間（時間/名）	15.7	12.6	14.8
研修費用（円/名）	102,415	55,611	82,136
研修参加率（％）	59.9	55.3	55.1

01. フェリー輸送によるモーダルシフトの提案

関連するGRI項目 302-4 | 302-5 | 305-4 | 305-5 | 403-9

フェリー輸送は、船舶を用いた無人航送による乗務員の労働環境改善に加え、モーダルシフトによるCO2削減、BCP対応手段としても注目されています。当社では柔軟にモーダルシフトに対応すべく専門部署を組織し、1,200台以上のトレーラーシャーシを駆使して、環境負荷低減や安定的な輸送を行っています。この取り組みは、(一社)日本物流団体連合会において、『令和3年度 モーダルシフト最優良事業者賞(大賞)』を受賞しました。



02. 令和3年度 エコシップマークの認定

関連するGRI項目 302-4 | 302-5 | 305-4 | 305-5 | 403-9



国土交通省や学識経験者などから組織するエコシップ・モーダルシフト事業者選定委員会において、『令和3年度 エコシップマーク認定事業者』に選定されました。食用油・小麦粉などの製造を行う大手食品メーカーの製品輸送では、

従来、大型車両で陸上輸送していた茨城県神栖-兵庫県神戸間について、千葉県-大阪府間を、フェリーを活用した海陸一貫輸送に切り替え、陸上輸送距離を80%・約500km短縮し、CO2排出量を削減しました。

当社は長年環境負荷の低減やドライバーの労働環境改善に取り組んでおり、15年度より6年連続でエコシップマークの認定を受けています。

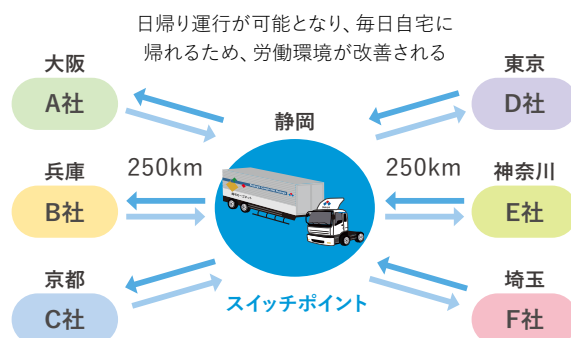
03. 関東と関西の中間で貨物をリレーするスイッチ輸送の推進

関連するGRI項目 302-4 | 302-5 | 305-4 | 305-5 | 403-9

宿泊運行が必要な長距離輸送では、中間に位置する拠点で貨物をスイッチする中間輸送を行うことでドライバーの日帰りの運行を実現し、コンプライアンスを遵守しています。これにより対応可能な人員の幅を増やし、女性や高齢のドライバーも活躍できる環境を整え、ホワイト物流の推進を図ります。また、車両の大型化や戦略シャーシ導入により積載率を上げることで輸送単位当たりのCO2を削減し、環境負荷の低減も実現しています。



スイッチ輸送の場合



SDGs実現に向けた取り組み

04. 異業種荷主の共同運行を実現する グリーン物流の推進

関連するGRI項目 302-4 | 302-5 | 305-4 | 305-5 | 403-9

運輸部門におけるCO2排出量を削減するため、異業種のお客さまと当社とで協働連携輸送を行っています。輸送車両台数の削減や実車率の向上、作業・待機時間の削減を図り、環境負荷の低減に加え、ドライバーの労働環境も改善しました。この取り組みは、令和2年度および令和3年度のグリーン物流パートナーシップ会議にて2年連続で『国土交通省公共交通・物流政策審議官表彰』を受賞しました。



05. 再生資源や危険品の 内航コンテナ輸送の推進

関連するGRI項目 302-4 | 302-5 | 305-4 | 305-5 | 403-9



内航コンテナ船を活用した再生資源や危険品の輸送により、CO2排出量の抑制や、貨物の飛散・散逸防止などによる環境負荷の低減を、適法性を確保した上で実現します。また船舶を利用することで長距離輸送ドライバーの負荷軽減や、災害時に備えた輸送ルートの分散も図っています。



06. 遠隔操作RTGの導入

関連するGRI項目 302-4 | 302-5 | 305-4 | 305-5

清水港新興津コンテナターミナル(以下、CT)では、遠隔操作RTGの導入事業を進めています。次世代高規格CTを目指し、'25年までに全てのRTGを遠隔操作化することで、作業環境改善やCT全体の生産性向上を図ります。ハイブリット型・電動型機器の採用により、脱炭素化を図り、温室効果ガスの排出抑制につなげます。



07. 令和3年度 静岡市森林環境アドプト企業に認定

関連するGRI項目 201-1



二酸化炭素の地産地消を目標に掲げる静岡市森林環境アドプト事業の趣旨に、鈴与グループは賛同しています。市の面積の約8割を占める森林の整備などの地球温暖化対策への取り組みが評価され、『令和3年度 静岡市森林環境アドプト企業』に認定されました。



08. 自社倉庫屋根への太陽光パネルの設置

関連するGRI項目 302-4 | 305-5

当社では、自社倉庫の屋上を、グループ会社が所有する太陽光発電設備を設置するスペースとして提供しています。再生可能エネルギーを発電することで、グループを挙げてCO2の削減に貢献しています。



09. エスパルスグループデーでのペットボトル回収企画

関連するGRI項目 306-2



鈴与グループは、Jリーグ 清水エスパルスのホームゲームにて鈴与グループデーと称した冠マッチを、年に一度開催しています。

'22年シーズンは3月19日 清水エスパルスVSヴィッセル神戸戦において、鈴与グループとIAIスタジアム来場者とが一緒に取り組める環境活動として、IAIスタジアムで排出されたペットボトル80kgを回収・リサイクルしました。



10. CA-5 作業改善提案発表会の開催

関連するGRI項目 403-1 | 403-2 | 403-3 | 403-4 | 403-5 | 403-6 | 403-9 | 404

CA-5※は、改善によって作業の安全・品質・生産性の向上を目指す、約40年間継続して行われている活動です。鈴与グループの倉庫・港湾に関係する会社や部署が改善活動に一年間取り組み、集大成として発表会も行われます。

本活動により、従業員の身体的な負担の軽減に対する意識の向上も図られています。

※鈴与独自の言葉で、「Check & Action(=作業や仕事を振り返り、検討し、改善しよう!)5件以上」の略



11. 働き方改革推進室の設置

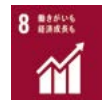
関連するGRI項目 401 | 403

'19年9月、聖域なきデジタル化を推進し、圧倒的に高い生産性の実現を目的とした、働き方改革推進室を設置しました。「価値を生まない・価値が低い業務プロセスを排除し、価値が高

い労務に労力を集中させる環境を整える」ことを方針として活動を行っています。



12. オフィスのリノベーション



関連するGRI項目 401 | 403

働き方改革の一環として、働く環境の整備に取り組んでいます。

生産性の高い働き方と人を惹きつけ、語りたくなる魅力的な空間を実現すべく、オフィスのリノベーションを進めています。



本社1階 LIGHTHOUSE

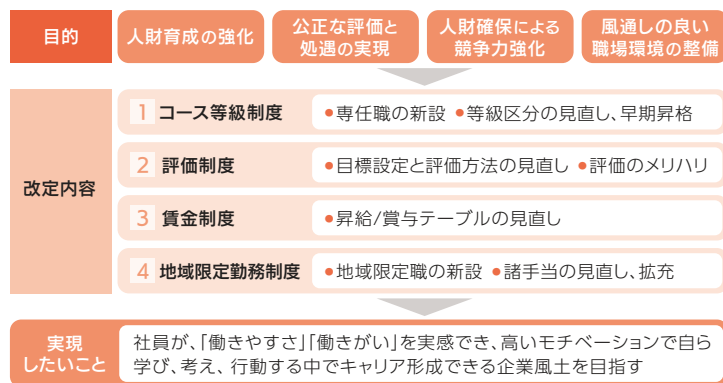


本社5階 CODO

13. 人事制度の刷新



新人事制度の全体像



関連するGRI項目 401 | 404-1 | 404-2 | 404-3

'21年4月、16年ぶりに人事制度を刷新しました。新制度は、鈴与㈱全社員を対象とした、コース等級・評価・賃金および地域限定勤務の4つを柱としています。

新人事制度の導入により、社員が「働きやすさ」「働きがい」を実感でき、高いモチベーションで自ら学び、考え、行動する中でキャリア形成できる企業風土を目指しています。

14. 研修プログラム Suzuyo Career Development Program



関連するGRI項目 401 | 404-1 | 404-2 | 404-3

'18年4月、教育・研修プログラムSuzuyo Career Development Program(SCDP)をスタートしました。コンセプトは「学び続ける集団・組織づくり」。「個の成長なくして会社全体の成長はなしえず、会社の持続的成長を果たすためには、個の力を磨き個々が成長することが不可欠」をコンセプトとし、社員が習得

すべき知識・スキルを ①マインド ②ヒューマンスキル ③ビジネススキル ④ビジネス基礎知識 ⑤事業・職種別専門性の5つに整理。社員の能力開発を図るため、ロジカルシンキング、ビジネスフレームワークの整理、リーダーシップ開発を行っています。

15. 家族で参加する、お客さま工場見学ツアーの開催

関連するGRI項目 413-1

社員のモチベーションの向上を図り、当社のお客さまへの理解を深めるため、CI推進委員会のメンバーが企画する、お客さまの工場・施設を見学するツアーを開催しています。新型コロナウイルスの感染拡大により、ここ数年実施を見合わせていますが、家族で参加できる社員旅行として好評です。体を動かすレクリエーションと組み合わせたり、「アイスクリームの食べ放題」または「お酒の試飲」のいずれかをセレクトしたりと、社員自らが創意工夫を凝らして計画するツアーは、コミュニケーションの向上にもつながっています。



16. 社員の家族を対象とした職場見学会の開催

関連するGRI項目 413-1



CI推進委員会が主催する、社員の家族を招待する職場見学会を開催しています。新型コロナウイルスの感染拡大によりここ数年は開催を自粛していますが、夏休みや春休みなどの期間を利用して、これまで定期的に開催してきました。

子どもたちに、家での様子とは全く違うお父さん・お母さんの働く姿を見てもらい、どんな仕事をしているのかを理解してもらうこと、また家に帰ってから話題になることが、社員のモチベーションの向上につながると考えています。



17. 育児休業規程※1、時短勤務制度、慶弔規程※2の改訂

関連するGRI項目 401-3

ワークライフバランスの実現、仕事と家庭の両立支援を目的として、当社独自の育児休暇制度を導入しました。3歳未満の子を養育する社員が、10日間の特別休暇と10日間の有給休暇を組み合わせることで、1カ月程度の休暇を取得できることとし、

働きやすさと働きがいをさらに向上させました。

また、子が小学校3年生の3月になるまで時短勤務制度の利用を可能としたほか、出産祝い金を子一人につき10万円とし、育児に対する手厚い支援を行っています。

※1:産後パパ育児制度の新設、育児休業の分割取得 ※2:出産祝い金



18. 優良な子育てサポート企業としてプラチナくるみんの認定

関連するGRI項目 401-3 | 413-1

くるみんマークは、子育てサポート企業として、厚生労働大臣の認定を受けた企業の証です。当社は、次世代育成支援対策推進法(次世代法)に基づき策定した一般事業主行動計画を達成し、厚生労働省が定める一定の要件を満たしたことが認めら

れ、『プラチナくるみん(次世代特例認定マーク)』の認定を受けました。今後も、社員がよりいっそう働きがいや働きやすさを感じ、活躍できる環境の整備を進めていきます。



SDGs実現に向けた取り組み

19. Suzuyoいいね!プロジェクトの推進



関連するGRI項目 413-1

社内の横のつながりを強めること、また地域の環境を保全することを目的としたプロジェクト。'18年に、茨城県牛久市にてNPO法人アサザ基金と共に活動を開始、翌年には静岡県菊川市でもNPO法人せんがまち棚田倶楽部と共に活動をはじめました。CI推進委員会を中心に、社員やその家族が共に酒米 五百万石を植え、育て、静岡市由比にある(株)神沢川酒造場で日本酒をつくっています。



20. 一社一村しずおか運動に認定



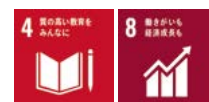
関連するGRI項目 413-1



一社一村しずおか運動とは、持続可能な農山村を目指し、継続的に地域・企業(県民)協働して地域資源を守る活動の認定制度として、静岡県が'06年より開始したものです。

当社は、NPO法人せんがまち棚田倶楽部および、グローバルデザインスクール(株)との3者で認定されました。グローバルデザインスクールが運営するコミュニティスクールジュニアビレッジの小中学生など地元の方々と共にせんがまち棚田での活動を行っていることが評価され、5月28日に認定証が授与されました。

21. 清水みなと祭りへの協賛



関連するGRI項目 413-1

鈴与グループは、8月4日の清水港の開港記念日に合わせて開催される清水みなと祭りに協賛しています。3年ぶりに行われた総踊りでは、鈴与グループも連を出し、若手社員が多数参加して祭りを盛り上げました。新型コロナウイルス感染防止対策を十分に行之、ソーシャルディスタンスを確保した中でも、鈴与の若い力を十分発揮したひと時となりました。



22. 小・中学生を対象としたみなと見学会の開催



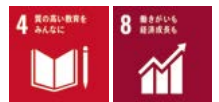
関連するGRI項目 413-1

地域の中学生の職場体験学習の支援を目的に、清水港や物流現場の見学会を開催しています。新型コロナウイルス感染症の流行下においては、オンラインでの見学会も実施しました。

当社はこれまでも、地域の皆さまに、当社と関わりの深い清水港や、物流事業を身近に感じていただく活動を行っています。



23. シヅクリ・プロジェクトへの参画



関連するGRI項目 413-1

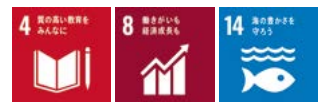


(一社)シヅクリ※が、静岡県内の中高生を対象として実施する教育プログラム『engine-企業のリソース(強み)を活用して地域社会の課題を解決する-』に参画。生徒たちによる、鈴与グループのリソースを活用して地域の課題を解決する企画の考案に協力しています。

※静岡県内の生徒と地元企業・市民がつながることで、静岡から日本の未来を担う人財の輩出を目的に活動する団体。



24. 清水港／田子の浦港クルーズの開催



関連するGRI項目 413-1

静岡市が主催する清水みなと祭りおよび富士市が主催する田子の浦ポートフェスタ2022において、当社が所有する帆船オーシャンプリンセス号※でショートクルーズを開催しました。

鈴与グループの富士山清水港クルーズ(株)が運航するこのショートクルーズは、市民に海からの景色をお楽しみいただく人気のアトラクションです。

※オーシャンプリンセス号は、英国の財閥によって建造され、過去には世界的な指揮者カラヤン、イタリアの実業家フェラーリー族、女優エリザベステラーが乗船したこともある、別名「海の貴婦人」とも呼ばれる帆船です。



SDGs実現に向けた取り組み

25. 清水エスパルスの支援

関連するGRI項目 413-1

1998年2月より、鈴与グループはJリーグのプロサッカーチーム清水エスパルスの運営支援を行っています。サッカー王国として名高い静岡・清水に生まれ育てられた企業として、エスパルスを支え見守ってくださる市民の皆さまの声にお応えしていきたいと考えています。そして、エスパルスの支援を通じて、市民と地域のスポーツ振興に寄与しています。

また、日本プロスポーツ界初のカーボンオフセットクラブ化を宣言したエスパルスの活動に賛同し、エコ啓発イベントの開催や保育園・幼稚園・小中学校の運動場の芝生化などのサポートを行っています。



26. 地域スポーツ振興の推進

関連するGRI項目 413-1



鈴与グループは、'22年1月、プロフェッショナルラグビークラブ 静岡ブルーレヴズとパートナーシップ契約を締結しました。また当社中遠支店に勤務し、経理や国内倉庫業務などを担当する山本みなみさんは、7人制女子ラグビーチーム アザレア・セブンで活躍するラグビー選手でもあります。

水泳界においては、静岡市清水区出身 競泳 望月絹子選手とのスポンサー契約を締結。パリ五輪競泳日本代表に最も近い選手の一人であり、日々高い目標に向かって努力を重ねる望月選手の思いに共感し、支援を行っています。

静岡ブルーレヴズや山本選手、望月選手の応援・支援を通じ、静岡のスポーツ振興および活性化に寄与していきます。

27. 鈴与杯少年剣道大会の開催

関連するGRI項目 413-1

新型コロナウイルスの感染拡大により中止となった'20年を除き、'06年より毎年開催されている鈴与杯少年剣道大会に、当社は毎回冠協賛を行っています。また鈴与グループの剣道部に所属する社員たちが、大会運営に協力しています。

'22年5月の第17回大会は、小学生・中学生約300名が参加。徹底したコロナ対策を行いながら、熱戦を繰り広げました。



28. フードバンクふじのくにへ レトルトスープ・缶詰などを寄付

関連するGRI項目 413-1

鈴与グループで食品事業を展開する清水食品(株)の、販売期限が間近に迫った商品100万円相当を当社で買い上げ、NPO法人フードバンクふじのくにに寄付を行っています。鈴与グループは、困窮世帯への生活支援を行う同団体の活動趣旨に賛同するとともに、フードロスの削減にも取り組んでいきます。



29. 静岡市社会福祉協議会へ レトルト白米や缶詰を寄付

関連するGRI項目 413-1



非常時の備えとして自社で保管している防災備蓄品の定期入れ替えに伴い、差替対象でも賞味期限に間があるレトルト食品や缶詰・飲料などを、静岡市社会福祉協議会へ寄付しています。寄付物品は、コロナ禍において支援を必要とする方々のもとへ早期に届けられています。



30. マッチングギフトの贈呈

関連するGRI項目 201-1 | 413-1

マッチングギフトは、有志社員が給与天引きにて毎月100円ずつ、一年間積み立てた額に、会社が同額を上乗せして静岡市内の社会福祉団体に寄付する活動です。1994年から継続して行われており、静岡市社会福祉協議会を通じて静岡市内の福祉団体などへ寄付金および食料品を贈呈しています。

今後も社員一人一人が地域社会の一員であるという自覚を持ち、地域および社会貢献活動に積極的に参加していきます。



31. 各種義援金への寄付の実施

関連するGRI項目 201-1

鈴与グループでは、災害支援活動としてこれまでに西日本豪雨災害や熊本地震、北海道胆振東部地震などの災害で被災された方々への支援や、被災地の復興に役立てていただくことを



願い、会社およびグループ従業員から募った義援金の寄付を行っています。

SDGs実現に向けた取り組み

32. 水口屋ギャラリーの運営



関連するGRI項目 203-1 | 413-1

江戸時代には東海道興津宿の脇本陣として、明治・大正・昭和期には別荘旅館として繁盛し、多くの政治家や芸術家、文化人が訪れた一碧楼水口屋。西園寺公望、伊藤博文など、政治・経済の表舞台で活躍した人たちをはじめ、1957年には昭和天皇・皇后両陛下も宿泊されましたが、1985年、静かにその歴史に幕をおろしました。

鈴与グループは、約400年続いた宿屋の歴史を後世に伝えるべく、1999年に水口屋ギャラリーを開館。水口屋ゆかりの客人たちが残した書簡・水墨画・掛軸や、昭和天皇・皇后両陛下ご使用の食器などを展示しています。



33. フェルケール博物館の運営支援



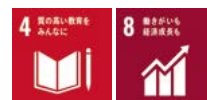
関連するGRI項目 203-1 | 413-1



ドイツ語で「交通」を意味するフェルケール。人と海の交流する港にスポットを当て、鈴与グループ発祥の地・清水港の歴史資料や港湾資料を多数保存・展示しており、清水港の生い立ちから現在までの変遷を学べます。

鈴与グループでは、港の仕事に従事する企業として、現在の博物館の前身である清水港湾資料館が設立された1977年から、この博物館を全面的に支援しています。

34. フェルケール博物館 ギャラリーコンサートの開催



関連するGRI項目 413-1

鈴与グループで支援するフェルケール博物館にて、著名な音楽家の皆さんをお招きし、鈴与グループ主催フェルケール博物館 ギャラリーコンサートを開催しています。一般公募により地域の皆さまをご招待するなど、地域の文化振興に努めています。



35. (学)静岡理工科大学への支援



関連するGRI項目 201-1 | 413-1



静岡県は首都圏と中部圏の間に位置し、多彩な産業が展開して、多くの先端技術が集積していますが、約20年前は、理工系の高等教育や研究機関の配置については十分ではありませんでした。1991年4月、各界各層からの大学教育・研究体制の充実・拡大の強い要望を受け、静岡県下初の理工系大学として、袋井市の丘陵地帯に(学)静岡理工科大学が開学。初代理事長として八代 鈴木与平が就任し、鈴与グループが積極的にバックアップしています。

現在は、2学部5学科・大学院修士課程2専攻の大学となりました。今後も未来を担う人材の育成を通じて、地域の発展に貢献していきます。

36. (福)玉柏会の支援

関連するGRI項目 201-1 | 413-1

1975年、七代 鈴木与平を理事長として(福)玉柏会が発足しました。静岡県中部地区における知的障がい者の支援環境改善を目指し、同年12月には、清水区穴原において入所施設『穴原荘』の運営を開始。'13年には耐震性に優れた新棟を建設しています。また玉柏会は、清水区梅田町にて通所型の知的障がい者就労支援施設『みすず』の運営も行っています。両施設で行われるイベントには鈴与グループ各社が協賛し、各社従業員もボランティアとして積極的に参加しています。



37. 静岡市立清水病院設立支援と医療研究奨励 鈴与基金

関連するGRI項目 201-1 | 413-1



1940年代当時、清水市(現・静岡市清水区)に公共の医療施設がなかったことから、七代 鈴木 与平は病院用地を確保し、建物・設備などを整えた上で市へ寄贈。清水市内初の公立病院が設立されました。1988年の移転と同時に18の診療科を持つ県下有数の総合医療機関となった同病院は、現在も県内外からの広域な医療ニーズに応え続けています。また移転に併せてスタートした鈴与基金は、医師の先端研究・技術向上などのために活用され、地域医療の発展をバックアップしています。



38. 清水港・みなと色彩計画への協力

関連するGRI項目 201-1 | 413-1

鈴与グループは、1992年に創立し、約30年にわたり活動を続ける清水港・みなと色彩計画推進協議会の活動に協力しています。清水港では、富士山と調和した人工景観を創出するために策定された計画に基づき、市民・企業が主体となって美しいみなと街づくりの活動が継続的に進められています。'22年3月、当社は興津K-66号倉庫塗り替えへの協力について感謝状を頂きました。今後も引き続き同会の活動に積極的に協力していきます。



39. 新型コロナウイルス感染症への対策

関連するGRI項目 403-3 | 403-5 | 403-6



新型コロナウイルスワクチンの職域接種に関する政府方針を受け、鈴与グループの従業員およびその家族、お客さまや地域の皆さまなど約24,000名を対象に'22年3月1日より東京・静岡・浜松・名古屋にて職域接種を実施しました。鈴与グループでは、お客さま、お取引先、社員とその家族の安全・健康を第一に、新型コロナウイルスの感染拡大を防止すべく、在宅勤務の推進や職場内の感染予防などの積極的な対策を行っています。また、困難な状況の中で医療に従事されている皆さまへ感謝の気持ちを込め、病院への寄付も行いました。

